

## 平成 21 年度第 7 回 下山地域会議 会議録

【日 時】平成 21 年 10 月 15 日(木) 19:00 ~ 21:00

【場 所】下山交流館第 11 会議室

【出席者】委員 13 名出席 2 名欠席

事務局 加藤支所長 原田 西山 鶴田 加藤

【次 第】1 あいさつ

2 会議録署名委員指名

3 前回会議録の承認

4 報告

・ 第 1 回たべてみりん!「下山食彩賞」料理コンテストについて

(表彰式 10 月 25 日(日)よってらっ祭みてらっ祭 14 時 15 分~

・ おいしくて安心・安全農作物栽培講座について

5 協議事項

(1)22 年度地域予算提案事業について

(2)今後について

(3)分科会ごとに検討

6 今後の予定

・ おいしくて安心安全農作物栽培講座

10 月 30 日(金)午後 1 時~ 下山交流館 11 会議室

・ 第 8 回地域会議

11 月 19 日(木)午後 7 時~ 下山交流間 11 会議室

---

【内 容】

1 あいさつ

(会長)みなさんこんばんは、地域会議もいよいよ大詰めになり、最後に向けてまとめます。

2 会議録署名委員指名

3 前回会議録の承認

全委員承認

4 報告

(会長)第 1 回たべてみりん!「下山食彩賞」料理コンテストについて報告を。

(委員)多くの応募の中から 6 つの賞と実行委員会特別賞を選ぶため、二次審査をまどいの丘で行った。米・ミネアサヒ部門 3 点、旬の野菜部門 3 点、この中には下山地区在住の方をはじめ下山地区内外からも応募があり、どれも甲乙つけがたいものでした。今後レシピなども支所だよりなどで皆さんに紹介していきたいと思う。

(委員)料理コンテストはこの地域の旬の野菜を使い、それを食べていただいて地域の活性化にしたいのですが、コンテストになると地元の野菜ではなく、すぐ手に入る野菜を使っている方もあった。ねらいがだんだんぼけてくるので、地域会議や実行委員会も軌道修正は常にしていかなければ

いけないと思った。

(委員) いろんな方が見に来るイベントになると良かったと思った。3人だけが作り、ひっそりやっている感じがあったので、音楽を流してもう少しリラックスできたら盛り上がったのではないかなと思った。でも和気あいあいでいい感じだった。

(会長) 第1回目にしては、すごく厳格にやられた。今後続けていき、課題を解決していくことが必要ではないかと思う。続いて、美味しくて安心安全講座について。

(委員) 今まで2回開催しましたが、17名から18名の方が参加した。最近特に安心安全に関心が高いと感じている。あと3回ありますが、関心を持っていただく方が増えてくると思う。

## 5 協議事項

### (1) 22年度地域予算提案事業について

(会長) 資料にはありませんが、子ども分科会から口頭で報告を。

(委員) 2つのポイントに絞ってやってきた。1つは保健師にもう一度来てもらい健康相談をし、お母さん達が気軽に集まれる機会を作れないかというお願い。もう一つは、香恋の館の対岸に子ども達が集まれるような遊具の設置、まどいの丘の屋外に遊具を設置し、集まれる場所を提供したらどうかという2点について検討を重ねてきた。今年度の事業、マップについては、今いろんな情報を集めながら然るべきマップを今年度中に作る準備をしている。

(会長) ありがとうございます。何かご質問は。無いようなので、次に。

(事務局) 食による地域活性化事業を地域予算継続事業として22年度も計画している。第2回目も今の実行委員会で新しいメンバーを加えながらやっていく。啓発は今後考えていきますが、レシピ集や料理教室、農作物講座など違った観点から同じような安全安心農作物講座をやっていく予定。

(会長) これについて何かご質問はありますか。次に農林分科会。

(委員) 前回の地域会議で説明したことと変更はありません。

(会長) 続きましてみりん分科会。

(委員) アンケートの結果内容を昨日の分科会で話をした。私達が考えていたような危機感を感じられてないということで、その手法を地域的に分けて話をすることや、ここから読み取れる危機感を感じている所からという意見があった。集計から見たところまだまだ個々に話し合いをしていく時間を作った方がいいのではないかと、あくまでも全体にワーキングという話し合いの場を作って、次年度にかけて深い話をしていったらいいのではないかとということで話をした。地域会議でこの資料を見ていただき、皆さんの考えをいただいてこれからどうしたらいいのか意見をいただきたい。

(事務局) 意識づけをしていく中で、下山全域にかかることなので全体で話をしていただき、下山地域の課題となるし、来年に引き継ぐことになるので、全体で話をした方がいいということが分科会でのまとめでした。

(委員) それぞれ各戸の問題という意識が半分位あり、どの程度切り込んでいくか非常に難しいと思うが家庭の問題や、後継者を一緒に住める方向にするための方策を探るのが大事なような気がしている。それがどこまで切り込んでいけるかが大きな問題で、よそから入ってもらえる人が安心して住める条件整備をするには何が必要かの検討が必要。戸数は減ってきており、危機感もっている。それをもっとあおる必要がある。若い人と住んでいる所もある。その辺どう仕掛けていくか手探りなのですが、まだ焦点がぼけている。

(委員) 近くで仕事ができるところが無いのが一番の原因かと思う。

(委員) これといった特効薬があるのではないと思うが、公共交通機関や仕事する場所への通勤を

しやすくすることは一つの条件だと思う。ここに住んでみたいといった魅力を作らないと長男でも残らなくなっていく。通おうと思える魅力を作っていないといけないと思う。

(委員) 街の方に住まいを構えて生活している人達は、退職してから戻ろうと思っていると思う。外から入ってくる人を受け入れると簡単に言うが、果たして本当に地元の人達が街から来る人を受け入れたいと思っているのかどうか。地元の人達の気持ちはどうなのか慎重に考えた方がいいと思う。安価な土地の斡旋を見て、こちら側から安売りしない方がいいと思う。安いから引っ越してくるというのはちょっと安易、自分の意思を持ってきてくれる方でないといけないと思う。

(委員) 区長の立場で言うと、地域会議がこういう問題を投げかけてくれることは大変うれしいこと。区長会でも吸い上げて緊急かつ長期で取り上げていく問題。避けて通れない問題なので、検討委員会を立ち上げてスクラムを組み、行政の力を借りながらやっていくということは絶対必要なことだと思う。どの組も仲間に入って共に進めていけたらと思う。

(事務局) 分科会として4人でやっている。定住で手を挙げた人達でチームを作るに到るまでは地域会議などで考えていかなければならないが、地域合意になるので、施策より前に地域全体で考えていくことの確認を取っていくことになると思う。

(委員) 今の地域会議は、問題を解決するために何とかしようと思っているが、テーマがいくつかありすぎませんか。引き継ぎにはテーマを絞って、英知を出し合う会議に持っていく方が良いのでは。たとえば今の定住問題なら皆が定住問題を話し合う方向へ持っていき、その中で定住のためには料理コンテストも良い。全部絡んでくる。

(委員) 定住問題は幅が広くて奥が深いものだから、そういう方向でやるのも一つの方法。

(委員) 実行部隊になるととても人が足らなくなるし、農業関係は大きすぎる問題だし、皆共通のテーマでお互い意見を出し合う方法で持っていった方が良いと思う。

(委員) 皆さんからの話はこの4人では出てこなかった。そういう視点がなく4人だけで話しをするのは、ものすごく大切な話なので不安があるし、いろんな方のご意見を入れたいと思う。

(事務局) 事業計画の承認ということで、分科会での内容を11月中にまとめ、全体でまとめと引継ぎ、提言要望の形にして3月までに終了したいと思っている。

(会長) 次に、三河湖の周辺整備について説明をお願いします。

(事務局) 三河湖の周辺整備を三河湖共栄会が平成19年からわくわく事業で実践している。三河湖は下山地域の観光拠点のため、地域提案事業で今の環境を守りながら新たな三河湖の景観作りをしていきたい。地元の人と共働で協力いただきながら進めていく。

(会長) ここに予算化されている地域提案事業について異議のある方みえますか。 <全員了承>

(会長) 今後まとめは、提言・要望・引継ぎと整理していくということで、分科会ごとに話し合ってください。以上で、第7回地域会議を終わります。ありがとうございました。